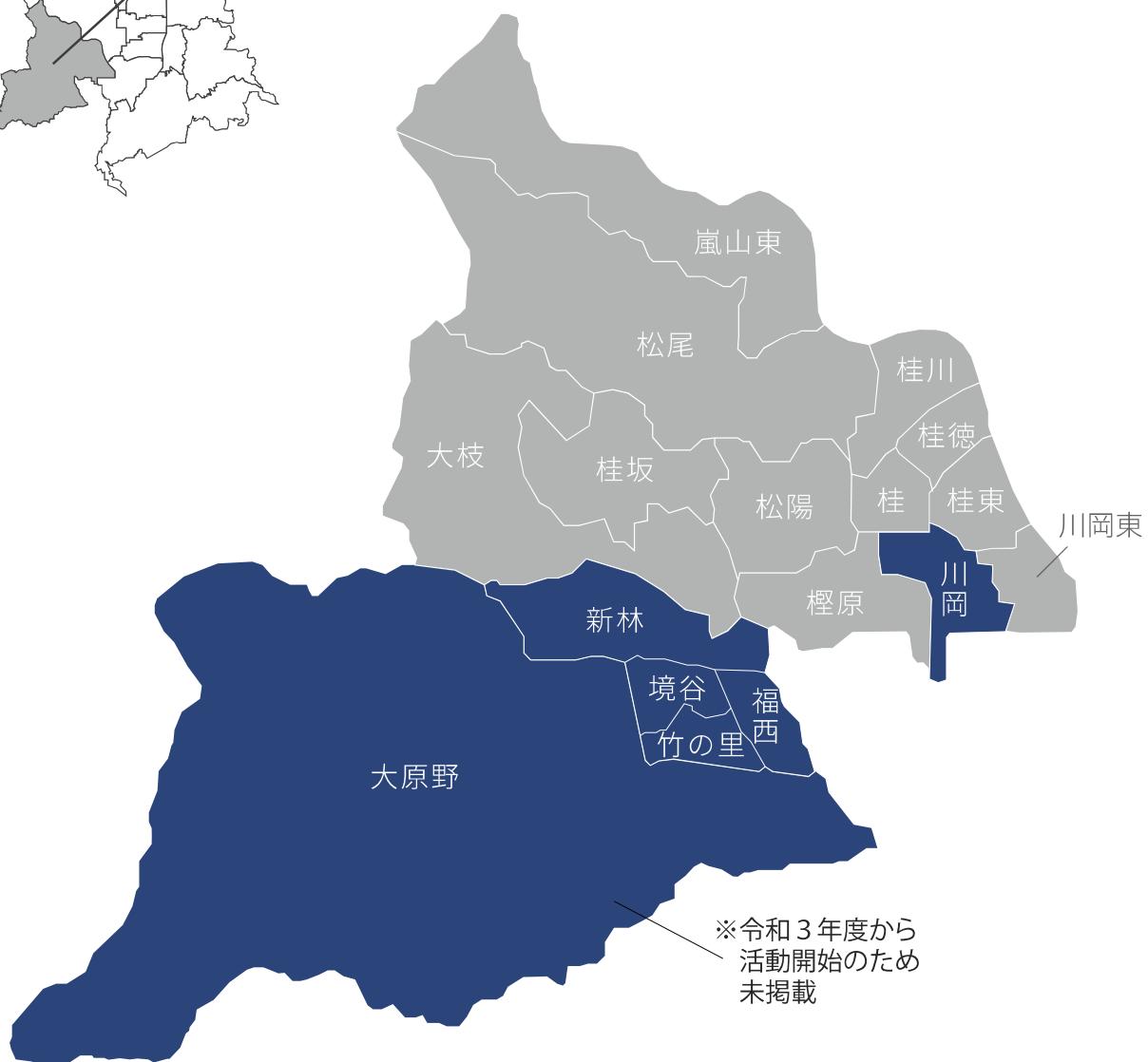


西京区

nishikyo-ku



● 西京区の元学区概略図

「地域連携型空き家対策促進事業」参加学区数

6学区

■ 取組の経緯・進め方

洛西ニュータウンは、新林学区、境谷学区、福西学区、竹の里学区の 4 学区からなる。各学区は幹線道路や河川等を境界として区画され、学区内で日常的な生活が完結することを想定して構成されている。商業施設、教育施設、公園、緑地等の他はほとんどが住宅地となっている。

地域連携型空き家流通促進事業では、福西学区の戸建住宅・テラスハウスからスタートしている。なお、戸建住宅地には地区計画が定められている。

また、平成 24 年度からは、洛西ニュータウン全体での取組展開に向け、洛西ニュータウン創生推進連絡会の「住まいと景観チーム」を中心とした活動にシフトしている。



● 洛西ニュータウン 4 学区の位置

■ 具体的な取組

取組①：空き家調査の実施

- 平成 23 年度に福西学区で実施した空き家調査は、外観調査を実施し、戸建住宅地の空き家は 47 件、テラスハウス地区の空き家は 0 件だった。建物の管理不全はほぼなかったものの、植栽・外構の管理不全が数件見られた。
- 平成 30 年度に西京区地域サポート事業の選定を受け、ニュータウン 4 学区内の 21 自治会（戸建・テラスハウス住宅地区を有する学区が対象）と連携して 6 年ぶりに空き家の実態調査を実施
- 空き家は 167 件（空き家率：5%）で、平成 24 年度の調査時の空き家数 135 戸（空き家率：4%）を上回っている。



● 外観調査・まちあるきの様子
(平成 23 年度)

取組②：空き家調査に関するニュースレターの発行（平成 26 年月）

- 空き家調査を新林学区、境谷学区、福西学区、竹の里学区でも実施し、調査結果をニュースレターにて住民に配布



● 調査活動後の変化の一例（左が調査前、右が調査後）

取組③：空き家の活用に関するアンケート調査の実施（平成 27 年 1 月）

- 空き家所有者に対してアンケート調査を実施（対象地域：新林学区、境谷学区、竹の里学区）
※ 有効発送数 61・回答数 22・回収率 36%

取組④：空き家問題への啓発活動

今後、高齢化や子供世代の転出等により、人口が減少傾向にあり、空き家が増加することが予想されるため、定期的に勉強会や相談会を開催し啓発活動を実施

- 「空き家対策セミナー」の実施（平成 26 年 9 月 30 日）
- 「暮らしと住宅の相談会」「暮らしの手続き相談会」の実施（毎月最終土曜日開催）

取組⑤：空き家課題のアンケート調査及び住民情報交換会

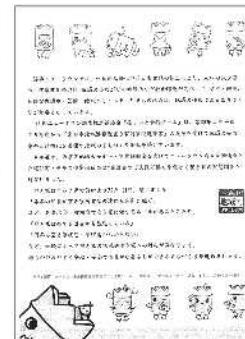
- 令和元年度は 4 学区連合会長と戸建・テラス住宅地区 21 自治会の 25 団体を対象として、空き家問題に関するアンケート調査を実施

（質問項目）

- 空き家対策として取り組んでいること
 - 空き家対策等についての悩み
 - 他の自治会に聞いてみたいこと・共有したいこと
 - その他
- 25 団体の内 21 団体から回答が得られ、その内容は全 25 団体で共有した。
- 予定していた空き家問題情報交換会は新型コロナウイルスのため令和 2 年度は見送り、延期中



● 相談会のチラシ



● 空き家調査に関するニュースレター

■ 今後の取組

- 空き家の発生を防ぐために地域の結束力・コミュニティを形成していく。
- 空き家課題への取組や相談活動に関する情報発信
- 高齢者の住み替え促進を促すワンストップでの住宅流通促進システムの開発
- マッチングイベントの開催
- 空き家調査の継続
- 高齢者の住み替え等で、住宅の流通が進み、若い世代が家を建替えて住むケースが増えてきている。今後は新住民を交えてまちづくりについて話し合う、空き家問題情報交換会の開催等の取組を進めたい。

■ 取組の経緯・進め方

川岡学区では、自治連合会、13町内の自治会、各種団体、小学校が一体となり活発な活動で地域の日々の暮らしを支援し、豊かな環境を育んでいる。

とりわけ、子どもたちの安全への取組みには地域全体で注力しており、平成14年度に「地域ぐるみの学校安全推進モデル事業」推進地域の指定を受け、平成17年度には川岡小学校が安全功労者内閣総理大臣表彰を受けた。

■ 今後の取組

- 各町内会を通じて、空き家の所在地を調査し、地域住民によるまち歩きにより、空き家の現状を確認する。
- 近隣住民の情報や登記簿調査により所有者を特定し、空き家の活用を促進する。
- チラシ作成・回覧や地域イベントでの啓発を通じて、空き家対策の取組みについて、地域住民への周知に努める。



● 三宮神社



● 総合防災訓練